

がん患者の医学的フォローは何年後まで必要か？

Cancer survival rate: How long should cancer patients undergo medical follow-up?

岡本 直幸* 片山 佳代子 夏井 佐代子
三上 春夫

1. はじめに

がん治療後5年経過した患者さんは一般的に“寛解”と称されているが、地域がん登録のデータからは5年目以降に再発や重複癌の発症が観察されることが多くなっている。また、長期観察においては、初期治療の効果よりも日々の療養生活パターンの影響が強くなることも予測される。では、がん患者さんの医学的フォローはいつの時点まで行うのが適切であるのか？この点を明らかにするために地域がん登録のデータと院内がん登録のデータを用い、新たな解析手法に基づいて検討を行った。

2. 資料と方法

神奈川県地域がん登録より、1994年から1998年の5年間のり患患者のなかでDCOを除いた91,070人(男52,363人、女38,707人)、および神奈川県立がんセンターの院内がん登録データのなかで同じ時期の5年間に入院治療を行ったがん患者7,947人(男52,363人、女3,948人)を解析の対象とした。追跡調査は、地域がん登録データに関してはがん記載の死亡小票との照合ならびに人口動態死亡テープの利用によるがん以外の死亡の把握を2010年末まで行い、院内がん登録データに関しては市区町村への住民票照会で2011年まで行われている。

解析に用いた方法は、KapWin v.3.4.2¹⁾

を用い性別主要部位別に13年実測生存率を算出し、同時に13年間の期待生存率を国がん作成のコホート生存率表2010年版²⁾を用いて算出した。次に、実測生存率と期待生存率の1年目から13年目までの変化率を計算した(図1)。計算された1つ生存率(性別主要部位別実測生存率と期待生存率)から変化率を算出し、両変化率の比(変化率比=実測変化率/期待変化率)を経過年別に算出した値を新たな指標として導入した。この変化率比は1以上の値で値であれば、期待変化率より高い実測変化率となり、死亡確率が一般集団の死亡率まで下がっていないということが示される。1前後あるいは1以下であれば我が国の一般国民の同じ年齢構成の集団の死亡確率と同等あるいはそれ以下であると考えることができる。この変化率比の動向を経年的に調べ、1以下になる年数を求めた。この求められた年数が、がん患者のフォロー期間に相当すると思われる。

*神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防・情報学部
〒241-0815 横浜市旭区中尾 1-1-2

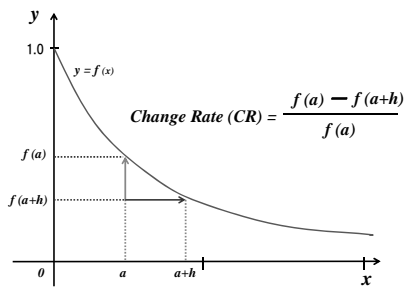


図1 変化率(change rate)の定義

3. 結果と考察

主要部位別変化率比（男女別）を図 2 に示した。いずれの部位においても 10 年目までは 1 以上の値を示し、肝臓がん、乳がんに関しては 13 年目においても 1 以上から大きく離れていた。男においても女と同様の傾向であり肝臓がんは 13 年後においても 1 以上の値を示した。

地域がん登録のデータを用いて推定された追跡期間と院内がん登録データから推定された追跡期間を表 1 にまとめた。

これらの結果より、がん患者の医学的フォローは男女ともに少なくとも 10 年間行う必要があることが示された。結果は地域からも、院内からも同様の追跡期間が推定された。とくに、男女の肝臓がんおよび女の乳がんにおいては 10 年以上のフォロー期間が必要という結果であった。

がん患者に対し 10 年以上のフォローが必要であるという結果が示されたが、がんの生存率に影響する要因としては初期治療やフォロー中の医学的サポートの重要性と共に、がん患者の日常生活における再発や

転移、重複がん発生に対する予防対策や日常の生活主観なども重要な要因であると考えられる。今後のがん患者のフォローアップに関しては、医学的視点に加えて社会生活の視点からのフォローアップ体制が必要になるのではないだろうか。

参考文献

1. 三上春夫：JACR モノグラフ No.17: 6-10, 2011
2. <http://ganjoho.jp/professional/statistics/cohort01.html>

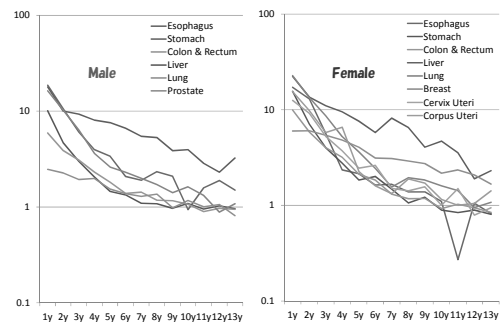


図2 Ratio of Change Rate by Cancer Sites and Follow-up Period (population-based CR data)

表1 性別、部位別の追跡必要年数

がん部位	男		女	
	地域がん登録	院内がん登録	地域がん登録	院内がん登録
食道	13	13	10	≥8
胃	10	7	10	8
大腸	10	10	11	10
肝臓	≥13	≥13	≥13	≥13
肺	12	12	12	11
乳	-	-	≥13	13
子宮頸	-	-	12	10
子宮体	-	-	12	11
前立腺	11	9	-	-
全部位	11	11	11	11

Summary

Background: The number of patients surviving cancer in Japan is increasing, with five-year survival rates exceeding 50%. These statistics are based on patients treated at least five years ago. How many years should medical follow-up continue? **Methods:** Our analysis examined data given by the hospital-based Kanagawa Cancer Center and registered in the population-based Kanagawa Cancer Registry. We measured the observed 13-year survival rate for cancer patients and the expected 13-year survival rate for the general population. The data was analyzed by using the ratio of both rates of change (RCR). **Results:** Once the RCR falls to ≤ 1 , it appears that the probability of death from cancer is no different from the general population. In males, an RCR of ≤ 1 was observed for cancer of the stomach, large intestine and prostate by the sixth or seventh year. In females, this rate was observed for cancer of the stomach in the eighth year and for the breast, uterus and large intestine in the twelfth year or later. **Discussion:** The effect of medical treatment on survival was presumed to be about ten years. Our study concludes that maintenance of long-term survival requires medical checks over a period of about ten years.